

# 令和6年度 学校自己評価システムシート（山村国際高等学校）

学校関係者委員会・第三者委員会

第三者委員 5名  
学校関係者委員 7名  
事務局（教職員） 5名

本年度 努力目標	1 学習指導においては、基礎・基本の徹底をはかるとともに、大学入試に対応できる応用力を育成する。また、生徒が主体的に授業に取り組む環境づくりに努める。
	2 進路指導においては、一人ひとりの進路に応じた適切な指導と、自己理解に向けた支援を行い、進路実現に努める。
	3 生徒指導においては、基本的生活習慣の確立に努めるとともに、自他を尊重する寛容と協力の精神の育成に努める。

達成感	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	おおむね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

学校自己評価					年度評価（令和7年3月31日）		
年度目標					年度評価		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	○現状として生徒の学力差が大きく、コースによっては入学後に基礎学力が不足している生徒もみられる。そういった学力差をどのように埋めていくかが今後の大きな課題である。	学習指導	○生徒の学力に合わせ教科指導法の工夫・研究を重ねる。 ○課題や小テストを効果的に実施し、授業の定着を図る。 ○放課後セミナーやSTGを通じて正課の授業で補えない苦手科目の克服を図る。	○欠点保持者が減り、生徒の主体的に授業に取り組む姿勢がうかがえるか。 ○課題や小テストにより、授業の復習の機会を活用できたか。	欠点保持者は以前に比べて減少しているが、一部の教科に欠点保持者の偏りが見られる。授業に意欲的に取り組む生徒が増えているが、一部に主体性に欠ける生徒も見受けられる。	B	欠点保持者については、補習を強化するなど今後も継続して根気強く指導をしなければならない。一方、積極的に授業に取り組む生徒が増えているため、今後はグループワークやアクティブラーニングをより積極的に取り入れ、生徒が主体的に授業に参加できる授業づくりに取り組んでいく。
2	○教室環境を整え、協同してクラス作りに参加しようとする生徒が増えている。一方、精神面で不安を抱える生徒が一部に見られる。	学級経営	○一人ひとりの役割とその責任を意識づける。 ○他者を常に自己の指標とする協同性を身に付けさせる。 ○個別面談を通して生徒の不安要素を聞き、組織的に対応する。	○教室内は常に整理整頓されているか。 ○クラスの友人関係は良好か。 ○自己の役割は責任をもって果たせたか。 ○不登校生徒はいないか。	環境美化を意識すると共に、クラス・学校行事における個々の役割も果たせているようであり、友人関係も概ね良好である。	A	二者面談や教育相談週間を通して担任が生徒一人ひとりの悩みや不安を聞く機会を作れている。全体的には良い方向に向かってはいるが、中にはクラス内での役割を果たせず、友人関係も良好ではない生徒もいるので、継続的に注意深く見守り指導していく必要がある。
3	○現状、ほとんどの生徒はよく校則を守り、規律ある学校生活を送っているが、全体のごく一部の生徒に遅刻や服装の乱れなどが見られる。	生徒指導	○5分前行動など、時間を守ることを意識させると共に、自己管理ができるように指導する。 ○保護者との連携を密にし、協力体制を整える。	○遅刻者が減り、5分前行動は徹底できたか。 ○基本的な生活習慣は身についたか。 ○保護者の理解を得た指導がおこなわれたか。	概ね時間を守ることを意識し、行動することができている。また、保護者・生徒共に信頼関係の下に指導ができているようである。	A	生徒指導については保護者・生徒からも概ね理解されているようであるが、一部でより厳格な指導を望む声も聞かれる。通学時に歩きながらスマートフォンを注視したり、イヤホン等で音楽を聴いたりしている生徒がたまに見受けられるため、登下校時に校外指導を実施すると共に、その危険性を伝えていく。
4	○進路指導部の体系的な指導の下、自己の進路希望に向けて早期より努力する生徒が増えている。 ○安易に推薦試験に流れてしまう傾向が、一部の生徒にみられる。	進路指導	○進路選択をおこなう上で、一人ひとりの適性を見極めて指導する。 ○一般・推薦を問わず大学入試を有利に進められることもあり、積極的な検定の取得を推奨する。	○生徒一人ひとりが自己の進路についてしっかり考えることができたか。 ○検定取得や掲げた数値目標等は達成できたか。	早期より生徒の進路意識は高まっている。また、検定取得者（特に英検）も増加傾向にある。結果として大学への進学率はこの数年上昇している。	A	自己の進路実現に向けてよく努力し、志望した進路目標を達成できた生徒が増加している。しかしながら前年度と比べて今年度は、進路実績がやや下降している。次年度に向け、外部講師（業者）との連携を一層強化すると共に、一つ上の進路目標実現を目指す指導をしていく。
5	○明るく元気に挨拶ができる生徒が多い。また、部活動や生徒会活動、学校行事に積極的に参加し、充実した学校生活を送っている生徒が多い。	学校生活	○すべての生徒が協同して学校行事に参加できるよう確かな指導を行う。 ○各部活動が具体的な目標を掲げ、目標達成をめざして指導する。	○すべての生徒が積極的に学校行事や部活動に参加できたか。 ○部活動では各部が目標とする充実した成果をあげることができたか。	学校行事では、生徒の積極的に参加する姿が見られた。部活動では全国大会常連のダンス部に加えて男子ソフトテニス部、吹奏楽部、バトン部、生物部、放送部などが優秀な成績を収めた。	A	部活動が活発になり、以前と比べて上位の成績を収める部が年々増加している。一方で、各部が活動できる環境（グラウンド・体育館・特別教室）が不足していることが大きな課題となっている。今後は校内での活動にとらわれず、公共施設の利用や高大連携校の施設を借用するなどして活動環境を整えていく必要がある。

第三者・学校関係者評価	
実施日 令和7年2月8日／3月10日	
各委員からの意見・要望等	評価
授業風景を見学したところでは、生徒はよく授業に取り組んでいるようだ。学力の低い生徒で、特に30点以下の生徒に対する補習は必要である。欠点保持者を多く抱えている運動部もあるようなので、生徒・保護者に学習に対する意識を向上させられたら良いと思う。	B
今後、教育活動を含め、あらゆる場面で生徒の声をもっと生かしていくことも必要ではないか。先生たちの指導にも格差が感じられる。生徒に寄り添える先生が増えようと思う。施設設備について不満の声もあるようだが、校内はよく清掃がなされている。	B
学校生活において、生徒が安全に過ごせることが一番重要である。防犯や災害への備え・対応ができていけばよい。私立高校として服装指導は厳しくした方がよい。そうすれば校則を守っている生徒から不満の声は出ないはずである。	A
将来の進路を見据えた指導が十分に行われている。ホームページなどを通して、保護者向けに進路に関する情報をさらにわかりやすく発信できるとよい。指定校推薦を受けるには一定の成績が必要であることを保護者にも周知させておいた方がよい。	A
部活動の終わりが遅いと心配な保護者もいるので、連絡ツール(classi)を使い、下校を通知できれば安心である。生徒から見ると設備面での不満があるようだが、少しずつでも定期的な保守改善はできているようだ。学校行事や部活動の結果などが、ホームページに速やかにアップされるとよい。	A